

酸化アルミナ用陶材 クリエーションAV
CREATION AV

酸化ジルコニウム用陶材 クリエーションZI
CREATION ZI

商品説明書



クリエーションAV／クリエーションZI 販売元
有限会社ファクト

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚1-62-7-1004

TEL 03-5304-9310 FAX 03-5304-9312

<http://fact-creation.com>

注意!! Notice!!

オールセラミックはCAD/CAMの出現で、メタルセラミックと変わらず、むしろ手がかからない分、それ以上に手軽なものとなりました。しかし、行程は単純化されたように見えながらも、しっかりと認識しておかなければならないことがあります。以下の点にご注意下さい。

①マイクロクラック

酸化アルミナ及び酸化ジルコニアのフレームは、専用のバーで簡単に削れますが、その割合によってフレームにマイクロクラックが入ることがあります。このマイクロクラックを見逃してはいけません。クラウン完成後、またはセット後でもフレームごと割れる可能性が高くなります。これは特に酸化ジルコニアの場合に起こるようです。マイクロクラックを入れない用に割合するには、バーを当ててフレームに熱を加えないことです。一番良いのは注水タービンで切削することですが、発熱しにくいポイントも出てきました。そういったポイント類をしようするのも良いと思います。

②粉塵

酸化アルミナも酸化ジルコニアも患者の口腔内で安全かどうかという意味で研究されてきたものの、加工の段階で粉塵として体内に直接入っていくものに関しては、作業する側で注意しておかなければならないと思っています。切削の際は高性能マスクを使用するかボックス内で行うのが良いでしょう。

③焼成スタンド(ポーセラントレー)

セラミックを焼成するためのトレーはなるべく黒いものを使用して下さい。白い(白っぽい)トレーは黒っぽいものに比べ、熱効率が良くないので、なるべく黒っぽいトレーのご使用をお薦めします。

インノバ・フレーム・シェーディング・テクニック In-Nova Frame Shading Technique

WILLI GELLER
Creation

クリエーションアルミナ及びジルコニア陶材にはフレームの彩度調整専用のライナー陶材があります。しかし、オールセラミックフレームの不透明が強くなると、仕上がったクラウンの内部からの反射が強くなり、浮いてしまいます。また、ライナー陶材を焼成した分、築盛スペースもとられてしまいます。クリエーションには、このライナー陶材を使用せずに、メタルセラミックでも使用しているモディファイヤーの“インノバ”を使用し、彩度調整するテクニックがあります。このテクニックはフレームに透過性を残しながら彩度を上げ、築盛スペースも残します。

■インノバ(In-Nova)

インノバはデンティンなど陶材用モディファイヤーです。もともとインノバはメタルセラミック用に作られましたが、陶材に混ぜて使用したり、築盛中に塗布したり、オールセラミックのフレーム彩度調整に使用できます。インノバには蛍光性を多く含んでいますので、彩度を上げてても明度は下がりにません。発色が強いので、ごく少量で使用して下さい。また、表面ステインとしては使えません。インノバ7番はイリュージョンとして使用します。コーピングの境目を分かりにくくするため築盛中に塗布し、グレーでありながら暗くならず、スペースが少なくてもスペースがあるかのような表現ができます。

- I-N1 ライトピーチ(light peach)
- I-N2 サーモンピンク(salmon pink)
- I-N3 サンバーストイエロー(sunburst yellow)
- I-N4 ライトブラウン(light brown)
- I-N5 ゴールデンレッド(golden red)
- I-N6 マスタード/オリーブ(mustard/olive)
- I-N7 ラベンダー/バイオレットグレー(lavender/slate)
- I-N8 ペリウィンクル/ブルー(periwinkle)
- I-N9 ホワイト(white)
- I-N10 イエロー(yellow)



■インノバの使用例

①デンティンに混ぜる

デンティンに赤みを足したい場合に、インノバを適量混ぜます。デンティン1に対しておよそ1/48の分量で、1ランクシェードが上がります。赤みのあるA3を作りたい場合は、DA2+IN1(48:1)で混ぜます。このテクニックは、QDT2005年11月号の小田中康裕氏の論文に紹介されています。

②イリュージョン

切縁1/3のエリアにイリュージョンとしてインノバ7番を塗布します。まずはユニバーサルリキッドでデンティンを濡らし、小筆でインノバ7番をひたひたと塗布します。濡れた上に塗布することで、必要以上陶材に染み込み過ぎることを防ぎます。切縁のオレンジっぽさを表現するのにも同じような方法でインノバ3番などを塗布します。

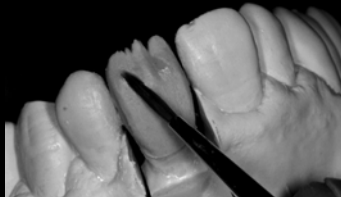
③仮固定

グレース前のわずかな色調整をしたい時、インノバを塗布し850℃位で仮焼成します。陶材の溶解温度に達する少し手前の温度で止めていますので生焼け状態ですが、グレース焼成できれいに焼き上がります。

④オールセラミックフレームの彩度調整

アルミナ及びジルコニアコーピングの色調整に使います。よく使用するのは5番のブラウンです。これをシェードガイドと照らし合わせながら、A1のように彩度が低い場合は薄めに、彩度が高い場合は濃く塗布します。インノバをユニバーサルリキッドで練りし塗布するだけで、クリア陶材なども使用しません。インノバだけで焼成してフレームの下地作りは終了です。あとはメタルセラミックと同じ要領で築盛します。

イリュージョン



ジルコニアフレーム のカラーリング



オペーシャスデンティン OPAQUE DENTIN

WILLI GELLER
Creation

■オペーシャスデンティン インテンシブ (Opaque Dentin Intensiv)

VITAシェードのODより鮮やかな色のODです。症例に応じ、サービカルやポンティックの基底面、下部鼓形空隙、臼歯の咬合面、舌側などに使用します。

OD-32 ハバナ (havana)

A2,A3の歯頸部色に相当し、サービカルやポンティックの基底面、臼歯の咬合面などに使います。

OD-37 カリー (curry)

B4のようなイエロー系のオレンジで、明るく彩度の高いODです。

OD-41 オレンジ (orange)

赤みのあるオレンジで、明るく彩度の高いODです。OD-37と1:1位で混ぜると、A3.5位のサービカルやポンティック、咬合面などに使えます。

OD-43 アイボリー (ivory)

中切歯の中央部に見られる明度の高いエリアなど、明度を上げたい場合に役立ちます。中切歯の中央部のデンティンの下層に築盛すると、明度のメリハリがでます。

OD-44 カリー (cuba)

葉巻のようにやや緑がかった彩度の高いODです。



ショルダーポーセレン／グレース SHOULDER PORCELAIN／GLAZE

WILLI GELLER
Creation

クリエーションのショルダーポーセレン(SP)には蛍光材を多く持たせており、その繊維光学効果によって、クラウンに入射した光を歯根に向けて導き、歯頸部領域を明るくさせます。歯肉からクラウンにかけての明るく自然で移行的な修復は、クリエーション最大の魅力とされています。

■ショルダーポーセレンの使用方法

クリエーションのSPはメタルセラミックの場合、二層で築盛します。オールセラミックの場合は支台が変色歯やメタルコアでない限り、トランスショルダーのみで築盛します。色はSP22～25の中から選択します。VITAシェードに合わせたSPの選択方法は、**Build Up Chart** (築盛構成表) を参照下さい。

《SPの築盛量について》

A2シェードで築盛する場合、SP22を大きく築盛します。SP22はそれだけでコントゥアを作るように大きく、大胆に築盛します。

クリエーションのSPは大きく使うことで光をコントロールし、歯頸部領域を鮮やかに見せます。SPの焼成はデンティンの前に2回行います。デンティンを盛る時にピッタリ合っていないくてもそのまま作業を進め、グレースの段階で合わせます。

《模型からうまく抜く方法》

まず、支台模型に硬化剤を塗布した上で、ポーセレン分離材(クリアペン)を塗布します。SPは分離効果を高めるショルダーリキッドで練和します。築盛後にファーネスの炉口やドライヤーなどで軽く乾かし、表面がやや白く粉っぽくなった段階で抜き取ります。



クリアペン

- トランスショルダー
- SP-22 フラミンゴ
- SP-23 サンド
- SP-24 ゴールド
- SP-25 ブラウンレッド
- オペーカスショルダー
- SP-28 オペークイエロー

《マージンのリペア》

グレースの段階でのマージン調整は、SP+HT(4:1)で行います。SPIにHTかGLを混ぜることで、アドオンとして融点の低い陶材にすることができます。焼成はグレースと同時にグレースのスケジュールで行います。

■グレース／GL

陶材よりも溶解温度が低く設定されているので、マージンのリペアーや、コンタクトの調整などアドオンとして盛り足したい場合、使いたい陶材に10～20%混ぜることでアドオン陶材にすることができます。



トランス/トランス インテンシブ TRANS/TRANS INTENSIV

WILLI GELLER
Creation

■トランス TRANS

CL-0 クリアートランス

単体で使用してもいいですが、使用量が多いと明度を下げてしまいますので、慎重に使用して下さい。他の陶材を柔らかい表現に変えたい時にCL-0を混ぜて使用してもいいと思います。

UC ウィンドウ

CL-0より透明度の高いトランスです。

OT オパールトランス

TI-1に近い色をしています。青みがかった乳白色の、柔らかなオパール効果が得られます。クラウン全体に被せると明度が下がることがありますので注意して使用して下さい。

※オパール効果は青みがかった短い波長の光とオレンジがかった長い波長の光の反射によって生まれます。

NT ニュートラルトランス

NTはモディファイイングトランスです。エナメルを透明度を上げる為に「S-058+NT(4:1)」といったように、異なった比率でエナメルなどと混ぜて使用できます。

■トランスインテンシブ (Trans Intensiv/Translucent)

TI-1 ブルー(blue)

天然歯に見受けられる柔らかい青みがかった乳白色を表現します。

TI-3 ピンク(red)

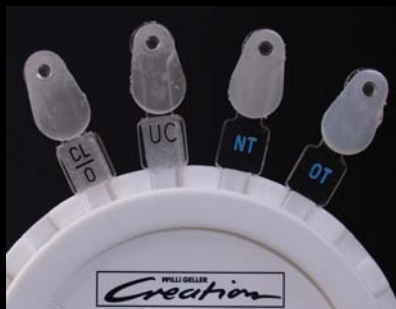
若年層に見受けられるような、柔らかい赤みの透明層を表現します。

TI-4 フラミンゴ(yellow)

老年代に見受けられるイエローオレンジ系のトランスです。

TI-5 グレー(grey)

切縁領域における内部トランスとしてトーンを落としたい部分や、抜けているかのような透明感を表現したい時に、TI-5単独またはSI-01、TI-1、OTなどと混ぜて柔らかなグレーゾーンを表現します。発色が強いので使い過ぎには注意して下さい。



エナメルインテンシブ／パールエナメル／エフェクトエナメル ENAMEL INTENSIV／PEARL ENAMEL／EFFECT ENAMEL

WILLI GELLER
Creation

■エナメルインテンシブ (Schneide Intensiv/Enamel Trans)

SI-02からSI-06になるにつれ透明度は変わりませんが、白っぽく色味のないものから、彩度の高いオレンジイエローになります。程良い不透明さがあるため、表層に薄く一層使用すると、クラウンに力強さが出ます。

SI-02 ライトオレンジ (light orange)

SI-04 オレンジ (orange)

SI-06 ヘビーオレンジ (heavy orange)

■パールエナメル (Pearl Schneide/Pearl Enamel)

パールエナメルは真珠のような輝きと光沢を持ち、ホワイトニングした歯にも合う鮮やかな白さを表現できる陶材です。前歯部の表層に薄くかぶせるように使用すると、柔らかな輝きを持った白さを表現できます。また、臼歯の咬頭にPS-3を使用するのも効果的です。PS-0と3を混ぜ、クラウンの縁取りによく使用されています。

PS-0 ホワイト (white)

PS-3 オレンジ (orange)

■エフェクトエナメル (Effect Schneide/Effect Enamel)

日本ではCreationZIのみ

エフェクトエナメルはブルーとオレンジのエナメルモディファイヤーです。

SO-10 ブルー (blue)

インサイザルの抜けるような透明感を色として表現するのに役立ちます。アクセントとして単独で使用したり、任意のSIやTI、PSなどと混ぜて築盛しても良い効果が望めます。イリュージョン (IN-7) に薄く被せたり、TI-5と混ぜるなどして、抜けすぎず程よく落ち着かせたブルーグレーの表現は臨床に役に立ち事もあるでしょう。

SO-11 オレンジ (orange)

SIよりもHT53のような赤みがあり、インサイザルのアクセントなどに有効です。



ネックトランス／ジンジバルポーセレン NECK TRANSPA／GINGIVAL PORCELAIN

WILLI GELLER
Creation

■ネックトランス (HT/HALS TRANSPA)

HTはオレンジ系のトランスで、飴色のように深みがあり、透明感も強い陶材です。蛍光性が高く、多めに使用しても暗くなりにくいのが特徴です。

主に歯頸部領域に使用し、大きく築盛することで明るく歯肉からの移行的な表現ができます。また、HT-53などはインサイザルの内部などにアクセントとして使用してもきれいです。

VITAシェードに対応したチャート表がありますので、参考にして下さい。

HT-52 カーキ (khaki)

イエロー系のオレンジで、A2やA3の歯頸部によく使用します。

HT-53 サンド (sand)

赤みのあるオレンジで、A3.5の歯頸部によく使用します。

また、インサイザルのアンバー系のトランスとしても使うことができます。

HT-54 ハニー (honey)

イエロー系のオレンジで彩度が強く、A3.5やA4の歯頸部によく使用します。

■ジンジバルポーセレン (ZF/Zahnfleischmassen)

濃いバラ色のダークピンク。

症例に応じ、デンティンなど陶材やインノバを混ぜて使用して色に変化をつけても問題ありません。追加築盛で融点を下げたい時は、HTやGLを混ぜて使用して下さい。

ZF-DR ダークピンク (dunkerosa)



メイクイン／アプロキシマルデンティン MAKE IN／APPROXIMAL DENTIN

WILLI GELLER
Creation

■メイクイン (MI/MAKE IN)

オペーシャスデンティンよりも不透明な陶材です。主にマメロンの模倣に役立ちますが、スペースの限られた舌側などでも発色が強いので、鮮やかな色調表現が期待できます。マメロンに使用する時、単独で使用すると発色がかなり強いので、デンティンやエナメルなどと割って使用すると使いやすくなります。

MI-61 アイボリー (ivory)

MI-63 ハニー (honey yellow)

MI-65 ゴールド (gold)

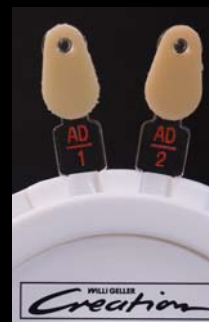


■アプロキシマルデンティン (AD/Approximal Dentin)

アプロキシマルデンティンは、下部鼓形空隙用に開発された特殊陶材です。歯間乳頭を暗くさせないために、程良い不透明さを保ちながら、蛍光性を持たせ、光をコントロールするという、新しいコンセプトの陶材です。インサイザルヘイローに使用しても良い効果が期待できます。
※ポンティックの基底面には使用しないで下さい。

AD-1 ライトイエロー (light yellow)

AD-2 オレンジ (orange)



リキッドは CC(メタル) AV(アルミナ) ZI(ジルコニア) 共通です。

■モデリングリキッド(MF/Modelling Liquid)

築盛用のリキッドモデリングリキッドは、築盛中の陶材が崩れず、操作性を良くするために作られました。陶材とモデリングリキッドは比重がほぼ同じになっており、このリキッドと混ぜた陶材が沈殿してこないのです。また、築性後は、ティシューペーパーの上に10分程度置き、水分を少なくしてから焼成して下さい。デンティンのカットバックはコンデンスしてから行うと形がとりやすいだけでなく、焼成後の収縮も抑えられます。

容量: 1000ml 250ml 50ml

■ユニバーサルリキッド(UF/Universal Liquid)

ステイン用、または、ペーストオペークの希釈用のリキッドとして用います。特徴として粘性があり、乾燥しにくいという性質を持っています。築盛する陶材に少量混ぜることで乾燥しにくくなります。築盛中に陶材が乾いてしまうと、焼成段階で割れてしまいますので、ユニバーサルリキッドは乾燥を遅らせることができるという意味でとても便利です。

容量: 50ml 25ml

■ショルダーリキッド(SPL/Shoulder Liquid)

ショルダーポーセレン用のリキッドです。陶材と練和すると適度に固まる性質がありますので、作業模型から外しやすくなっています。

ショルダーリキッドで練和した陶材は、練り直して再利用できます。

容量: 50ml 25ml

